

平成30年度第1回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 日 時 平成30年5月22日(火) 午後2時00分～午後3時10分
- 場 所 座間市役所 3F-1会議室
- 出席者 岩田会長、小俣副会長、室星委員、小林委員、山田委員、渡邊委員、野口委員
- 事務局 環境経済部長、環境政策課長、環境保全係長、主査1名、主事1名
- 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 傍聴者 なし
- 配布資料 ・次第
  - ・平成29年度座間市地下水総合調査事業委託
    - 1. 全体業務計画書(案)―5カ年計画―
    - 2. 業務計画書(案)―平成30年度―
    - 3. 実施計画書(案)―地下水総合調査―
    - 4. 実施計画書(案)―GETFLOWSの更新―

1 事務連絡

平成30年4月1日発令の人事異動を受け、座間市地下水保全連絡協議会要領第3条に基づき、上下水道局の野口経営総務課長が新たに委員となりました。

2 環境経済部長あいさつ

3 議題

(1) 平成29年度座間市地下水総合調査事業委託 平成30年度業務計画及び実施計画について

①パシフィックコンサルタンツ(株) (以下「PCKK」という。)による事業説明

「全体業務計画書(案)」、「業務計画書(案)―平成30年度―」、「実施計画書(案)―地下水総合調査―」及び「実施計画書(案)―GETFLOWSの更新―」について説明がありました。

②質疑応答等

ア 実施計画書(案)―地下水総合調査―について

・ 岩田会長

目久尻川は、普段流量が少ないため、河川流量観測が難しい状態と思う。芹沢川を調査河川にすることが妥当ではないかと思う。目久尻川の水量は、あまりにも少ないので、調査ができないのではと危惧している。

- ・ PCKK

目久尻川は、上流の流量が少ないが、中流で湧水が湧出している。そのため、中・下流において観測を行うには十分な流量があると認識している。

- ・ 岩田会長

雨水浸透ますのメンテナンスについて、個人での対応はなかなか実施が難しいと思う。メンテナンスに協力することで、インセンティブを与えるようなことはできないか。呼びかけだけではうまくいかないと思う。

- ・ PCKK

呼びかけるための方法として例えば、「水循環モデル (GETFLOWS) を利用して、雨水浸透ますを清掃しなかったら、地下水水位が低下し『座間みず』が採取できなくなる。」とか、「清掃しないと、住民に影響が発生する。」などが分かるような資料を提供できないか考えている。

- ・ 岩田会長

「自分たちが生きている間は問題にならない。」という意見が、残念ながら大半と思う。しかし、一市民として考えれば、地下水の話は、重要な話であると説明を聞いていて感じた。

- ・ PCKK

座間市だけの取組ではなく、周辺自治体も巻き込んで相模原台地の地下水を保全していく必要があり、地下水に対する意識向上が重要と考える。

- ・ 岩田会長

目久尻川では水質がきれいになってきており、アユも群れをなして遡上している。これは下水道整備の成果と思う。今度は、水を地下に浸透させて健全な水循環に取り組みようとしている。さらにアピールし、健全化を進めていきたい。

- ・ 渡邊委員

雨水浸透ますにオーバーフロー管があった場合、雨水は、どこに流れ出ていくのか。

- ・ PCKK

昨年度調査した住宅の雨水浸透ますは、ほとんどの箇所道路側溝とつながっていた。側溝を流下し河川に流れていく。また、1軒だけ、オーバーフロー管がついていない雨水浸透ますがあった。なお、昨年度の簡易浸透能調査時には、オーバーフローすると正確な浸透能を把握できないため、詰め物をして調査を行った。

- ・ 渡邊委員

雨水浸透ますの普及に当たり、「メンテナンスをすれば大雨の際に水があふれない」という伝え方もあると思う。

- ・ PCKK

雨水浸透ますの普及促進に重要な意見と考える。そのため、降った雨がどのくらい浸

透するのか、オーバーフロー管にどの程度流下しているのかを定量的に表示する必要がある。

今後、雨水浸透ますによる効果を評価するに当たり、浸透の状況を水循環モデルに反映させて解析したいと考えている。

イ 実施計画書（案）－GETFLOWSの更新－について

・ 岩田会長

埼玉の郊外に住んでいる知人宅では、「地面に穴を掘って地下浸透させていたが、しばらく浸透させていると徐々に浸透しなくなり、表面の土を削ると再び浸透するようになる。」と聞いたことがある。

・ PCKK

清掃する必要があると言っているのと同義で、雨水浸透ますにおいては、屋根のチリやゴミが雨水と一緒に入ってきて、これらの細かい粒子が徐々に浸透ますの内部やマス周辺の採石中に詰まってしまうため、徐々に浸透しにくくなる。本来であれば、マスの周囲の清掃も必要になるが、一般の人には難しいため、「マスの内部だけは清掃しよう。」という呼びかけを行うこととなる。

・ 小林委員

座間市内では、どの程度の数の雨水浸透ますが設置されているのか。

・ 事務局

正確な数は、把握できていないと思う。

・ 小林委員

昨年度の雨水浸透ますの調査では、どの程度、土等で詰まっていたのか。

・ PCKK

昨年度調査した住宅の雨水浸透ますでは、土は詰まっていなかった。ただし、平成26年度に行った同様の調査では、半分程度の雨水浸透ますに泥等が溜まっていた。地域性や設置状況によって詰まりやすさが違うと考えるが、定期的な清掃は、必要であると考ええる。なお、昨年度調査に当たって、住宅に個別訪問し、協力要請を行ったが、比較的新しい住宅には、ほぼ雨水浸透ますが設置されていた。

・ 小林委員

雨水浸透ますの設置数や大きさ（面積）が、座間市の面積と比較して小さいのであれば、座間市での地下浸透量に対して影響は小さいのではないかと。

・ PCKK

雨水浸透ますには、住宅の屋根面積分の雨水が集まる。座間市では、雨水浸透ますが設置されている住宅が相当数あるため、それらの総屋根面積は、座間市の市街地面積に比べて小さくないと考える。

市街地においてはアスファルトで覆われていて浸透していないため、市街地での雨水

浸透ますからの地下浸透量は、大きいと考える。しかし、オーバーフローによりあまり浸透していないことが確認できれば、上流などでの地下浸透量に比べると小さい可能性がある。

- ・ 岩田会長  
大規模地下構造物による地下水への影響検討は、市民も関心が高いと思う。
- ・ PCKK  
公開資料を確認し、水循環モデルによる解析、検討を進める。

(2) その他

特になし。